

くすり一口メモ

「褥瘡治療に用いる外用薬について」

褥瘡の治療は、表皮が欠損した皮膚組織に薬剤を使用することになり、治療に用いる外用薬は褥瘡の病態に応じた選択や使い分けが大切です。褥瘡をより早期に治癒させるためには創の適切な湿潤環境の維持、すなわち滲出液のコントロールが必要となります。褥瘡治療に用いられる外用薬の大半は軟膏剤の剤形です。軟膏剤は主薬である薬効成分と基剤から成り、その構成成分のほとんどを基剤が占めます。外用薬を使用する時は、基剤の作用で創面を適切な湿潤環境に保つことが重要です。そのためには、滲出液量を適切にアセスメントした上で、滲出液量にあった基剤の外用薬を選択する必要があります。

基剤は水に対する性質から、疎水性基剤、親水性基剤の2つに分けられます。疎水性基剤には油脂性基剤、親水性基剤には油中水型（W/O型）乳剤性基剤、水中油型（O/W型）乳剤性基剤、水溶性基剤があります。油脂性基剤や水分含有率の低い乳剤性基剤は創面の保護、保湿

表 薬効と基剤による褥瘡治療薬の分類

基剤の種類		特徴	滲出液量	代表的な製品（薬効成分）	壊死組織 除 去	感染制御	肉芽形成	上皮形成
油脂性基剤		保護・保湿	適量	亜鉛華軟膏 (亜鉛華軟膏) アズノール®軟膏 (ジメチルイソプロピルアズレン) プロスタンディン®軟膏 (アルプロスタジルアルファデクス)	-	-	-	
乳剤性 基 剤	油中水型 (W/O)	保護・保湿	適量	ソルコセリル®軟膏 (ソルコセリル) リフラップ®軟膏 (リゾチーム塩酸塩)	-	-	-	
	水中油型 (O/W)	水分補給	少ない	ゲーベン®クリーム (スルファジアジン銀) オルセノン®軟膏 (トレチノイントコフェリル)	-	-	-	-
水溶性基剤 (マクロゴール)		水分吸収	多い	プロメライン軟膏 (プロメライン) カデックス®軟膏 (ヨウ素) ユーバスタコーフ軟膏 (精製白糖・ポビドンヨード) ヨードコート®軟膏 (ヨウ素) アクトシン®軟膏 (ブクラデシンナトリウム) アルキサ®軟膏 (アルクロキサ)	-	-	-	-

[医療トピックス]

作用があります。水溶性基剤は吸水性が高く、水溶性分泌物の吸収・除去作用があり、創の滲出液を吸収させたい場合に使用します。乳剤性基剤はその保水性によって創面を保護し保湿する作用があるため、水分を供給したい時に使用します。また、精製白糖を配合した製剤や吸水性ポリマービーズを配合した製剤などは吸水性が高く、大量の滲出液を伴う場合などに使用することができます。急性期で滲出液の多い時期では創面水分量が多く、治癒に至る最終段階では滲出液が減少するため創面水分量も減少します。よって滲出液を吸収する外用薬を漫然と使用すると、水分量が過度に減少して湿潤環境が保持できなくなるため、薬剤を変更して湿潤環境を保持する必要があります。

褥瘡治療に用いられる外用薬の主薬に期待される薬効には、壊死組織の除去、感染制御、肉芽形成、上皮化促進などがあります。褥瘡治療では主薬と基剤の効果を理解した上で、創傷治癒過程に応じた適切な外用薬を選択する必要があります。

参考文献：日本褥瘡学会編 褥瘡予防・管理ガイドライン（第4版）  
古田勝経 早くきれいに褥瘡を治す「外用剤」の使い方

（鹿児島市医師会病院薬剤部 瀧下 恭子）

